



# 創業70年以上の櫻製作所が目指す、 売上高100億企業 今なお成長を続ける秘密に迫る

大阪の中心地である梅田からも程近い阪急十三駅から徒歩10分にある株式会社櫻製作所は、ものづくりの会社にしては珍しい好立地の会社である。1952年設立という長い歴史を誇る同社は、実は私たちの生活に欠かすことのできない製品を数多く生み出してきたという。さらに、多くの企業が自社の成長に苦慮する中、2035年3月期の達成を目指す「100億宣言」を明言するなど、決して歴史に頼り切った会社ではなく、常に創意工夫と進取の精神を大切にしながら、今なお新しい技術・製品の創造にチャレンジし続けている。今回は、株式会社櫻製作所の代表取締役社長である井上正基氏に同社がこれまで歩んできた歴史と現在、そして未来への展望を語っていただいた。

## 海外製品のカスタマイズから始まった櫻製作所 飛躍のきっかけは、技術力+ユーザー目線

櫻製作所には、会社設立のきっかけになった製品がある。それが、『オンレーター（掻き取り式熱交換器）』。粘度のあるものの加熱・冷却・混練を行う機械だが、機械名だけ聞いてもピンとこないだろう。しかし、オンレーターによって生み出されている商品は枚挙に暇がない。例えば、カスタードクリームやキャンディ、ソースなどの食品関連、軟膏などのケミカル関連など、私たちの生活に身近なものが実に多い。このオンレーターを開発したのが、設立年と同じ1952年（昭和27年）というから驚きである。当時、すでに海外製のオンレーターはあったようだが、日本でいざ使おうとするとうどうにも使いづらい。そこで櫻製作所の設立者である三浦春信氏に「日本用にカスタマイズされたものを作ってほしい」という依頼が寄せられ、作ってみたところ大好評。一気に会社の看板商品になったという。こうした海外製のものを日本用に作ってほしいという依頼は現在も続いているとのこと。「オンレーターの頃からそうですが、どれだけ世界最先端の技術が使われていても、現場で使いにくかったら意味がありません。私たちは、そうした“惜しい名品”をユーザー向けに改良し、使いやすくすることで多くのお客様からお喜びの声をいただいています」。櫻製作所の技術力および設計力は、国内はもちろん、海外でも高い人気を誇る。その証拠にこれまで世界30か国以上にオンレーターをはじめとした産業機械を1,000台以上輸出してきた。使う人のことを考えたものづくりの精神は、創業70年以上経っても絶えることなく、受け継がれている。

## 猛暑から現場を救う画期的な冷却システム 『ドライアイスステーション』の誕生

櫻製作所の看板製品は、決してオンレーターだけではない。ここ数年、特に問い合わせが多い製品が『ドライアイスステーション（可搬

型ドライアイスインゴット製造装置）』。一言で説明すると、手の平大のドライアイスインゴット（塊）を製造する機械である。そのインゴットを氷点下ベストと呼ばれる特製の冷却ウェアに装着することで、気温35度以上の猛暑下の現場でも快適に作業を行うことができるのである。さらに一般的に電気を用いたファン型の冷却ウェアと異なり、静電気などが厳禁の防爆・粉塵エリアでも問題なく使用することができるというから、現場では大好評なのだ。さらにドライアイスインゴットの原料である炭酸ガスも、石油科学プラントや製鉄所で発生した副産物的なものであり、元来大気中に放出されるだけだったものを再利用する形でインゴットにするため、大気中のCO2が余分に増加するわけではない点もエコである。「2025年6月から法律で職場における熱中症対策が義務付けられるなど、夏の暑さ対策は、あらゆる現場において最優先事項になっています。そのためか、ドライアイスステーションのお問い合わせは着実に増え続けています。実際、ドライアイス事業の初年度である3年前は20台の販売でしたが、今期は150台販売を目標にしております。今後、さらに注目度が増していくのではと期待しています」。このドライアイスステーション。実は誕生までに悪戦苦闘の日々があったという。多くの同業他社も挑んでは諦めた、大きな壁。それを乗り越えたきっかけは、一人のエンジニアだったという。

## 会社の成長に人材の確保・育成は不可欠 未来を見据えた、櫻製作所の人材マネジメントとは

「当初、ドライアイスのインゴット化に非常に苦労しました。高密度なドライアイスインゴットを作るのは本当に難しく、他社様もすべてそこで挫折しました。弊社も2年ほど、遅々として進まなかったのですが、ある時、弊社に入社してまだ日の浅い29歳のエンジニアが携わった途端に、あっという間に完成させてしまいました。おかげさまで特許も取れまして、現在事業として成り立っているというわけですね」。この話は、たまたま優秀な人材がいたおかげで助かったという話では



左・右上)ドライアイスステーション 右下)ドライアイスインゴット

ない。ここにも櫻製作所の強さが隠されていた。それが人材確保・育成の強さである。井上氏に話を聞くと、人材確保に苦しむ一般的なものづくりの会社とは明らかに異なる、人材天国の様相が伺い知れた。「弊社では、常に新しい技術・製品を生み出すため、優秀で多様な人材の確保に努めています。今年も大阪府経由で大学院生約25名のインターンの受け入れも予定していますし、グローバル化を見据えて、インドネシアや中国、韓国といった外国人材の採用も行っています。もちろん、入社して終わりではなく、長く働いてもらえるように社内環境も着々と整えています」。一例を聞くと、資格取得時の報奨金制度が充実しているとのこと。この制度自体は、他社でも目にするものだが、櫻製作所の驚くべき点は報奨金対象の資格の数である。その数、400超。井上氏曰く、直接的に業務に関係しない資格でも報奨金対象になるとのこと。なぜ、そこまで充実しているのかと聞くと、「何よりも学ぶことを楽しんでほしいですからね」と笑う。楽しみながら日々頑張れる環境にある社員は、長く働いてくれるのだという。



## 株式会社櫻製作所

- 所在地 本社・工場 / 〒532-0022 大阪市淀川区野中2丁目7番12号  
TEL.06-6302-5321 FAX.06-6302-5320  
東京営業所 / 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町18-17  
TRUST VALUE日本橋小網町4F  
TEL.03-5843-6077 FAX.03-5843-6078
- 事業内容 熱交換器・薄膜蒸発器・定量ポンプ・薬液注入装置・スタティックミキサー・ドライアイスステーション・氷点下ベストなどの開発研究・製造・販売  
およびそれに付帯する製品・部品販売、保守サービス
- HPアドレス <https://www.sakuraseisakusho.co.jp/>

【お問い合わせ先】 TEL.06-6302-5321 (担当者：及川)

## チャンスが来たら、すぐに動けるように 徹底した準備が、100億企業を射程内に

井上氏が櫻製作所の社長に就任したのが2013年。それから約13年の間に会社は大きく成長を遂げる。当時は社員数26名、経営も決して順調だったわけではない。それが今では、社員数60名を超え、毎年売上高を25%ずつ伸ばし、さらには事業の多角化を見据えて2社のM&Aを成功させるなど、売上高100億企業を目指すほどの企業に成長。その躍進の背景にある戦略を聞いてみると、井上氏は笑いながら答えてくれた。「私が大切にしているのは、出口戦略です。例えば、M&Aを検討する際、私は決して目の利益だけで選ぶことはありません。一見、直接的に弊社と関連がないような業種でも、将来的にシナジーが生み出せそうなビジョンが描ける場合は、積極的に動くようにしています。もちろん、そのためには準備が何よりも重要です。資金面はもちろんのこと、優秀な人材の確保も不可欠です。動きたいときにすぐに動けるように、アンテナを張りながら準備をし続けることこそ、成長の要因ではないでしょうか」。何よりも大切なのは準備。これは決してビジネスに限ったことではない。私たちも日々の生活の中で、巡ってきたチャンスをしっかり和掴み取るように、まずは今できることから準備していきたい。



代表取締役社長

井上 正基

Masaki Inoue

